

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 横山泰一

1. 概 要

歩 行 名 称	東北東ブロック
歩行区間詳細	スタート地点:新地駅
	ゴール地点:双葉駅
実 施 期 間	2022 年 11 月 1 日～4 日
全 歩 行 距 離	66km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏 名	年 齢	歩行日数	備 考
1	リーダー	横山 泰一	77	4	
2		太田 正廣	75	4	
3		蔵田 道子	73	4	
4		横山 弥生	75	4	

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ～ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備 考
1	11/1	新地駅～百間橋	14km	横山泰一・弥生、太田、蔵田	
2	11/2	百間橋～八坂神社	26km	横山泰一・弥生、太田、蔵田	
3	11/3	八坂神社～福島水素エネルギーフィールド	16km	横山泰一・弥生、太田、蔵田	
4	11/4	福島水素エネルギーフィールド～双葉駅	10km	横山泰一、太田、蔵田 (横山弥生は車で伴走)	

4. 参加費

参加者延べ日数 16

参加費合計 1,600 円

5. 費用概算(横山の場合)

交通費	往 自宅～福島駅西口 300km	ガソリン代+高速道路代	2人で分担	5,270 円/人
	復 双葉駅～自宅 260km	ガソリン代+高速道路代	2人で分担	5,470 円/人
	福島駅～新地駅～双葉駅 270km	ガソリン代	4人で分担	1,000 円/人
宿泊費	(食事なし 2 泊、朝食のみ 1 泊) 20,300 円			
飲食費等	9,000 円			
入館料	900 円			
	合計			41,940 円

6. 歩行地域の概要

今回の歩行区間は、東日本大震災による津波被害と福島第一原子力発電所の事故による避難地域となった場所である。災害復興の状況を見ながら応援する気持ちで、歩行を計画・実行した。

この沿岸地域は、原発事故とともに、津波被害も深刻だった。津波被害は、リアス式海岸地域とは異なり、海岸から内陸部まで平坦であり、場所によっては干拓も行われていた。このような地形が内陸への広範な被害をもたらした。さらに、南相馬市小高地区、浪江町は避難指示が出されていて、2017年3月31日解除されるまで、無人の町であり、打ち上げられた船や津波に破壊された建物がそのままの形で放置されていた。

避難指示が解除されたのち、海岸線は青森から続く防潮堤が建設されている。

浜通り地域は、イノベーションコースト構想の対象地域となり、沿岸地帯には、水素エネルギー研究フィールド、ロボット・フィールドなどとともに、廃炉関係の研究施設が立地されている。同時に、放射性物質で汚染された廃棄物の処理施設や、再建された漁港がある。放置された土地、メガソーラーが視界のほとんどを占めている。

今回の終点となった双葉町では、今年8月30日、JR双葉駅周辺の市街地を含む帰還困難区域5.5平方キロメートルについて、避難指示が解除された。解除された海岸線は「東日本大震災・原子力災害伝承館」前までであり、その先は、帰還困難区域、中間貯蔵施設、福島第一原発へと続く。

7. 歩行の詳細

【11月1日】 晴れ時々曇り



2022年3月の地震でトンネル入口で
がけ崩れが起こり10月に車は片側通
行で開通したが、歩行は規制されて
いた。
そのため大洲海岸ルートを断念し
た。

電車組と車組が10時30分に福島駅で合流し、車で常磐線新地駅へ。

東日本大震災後に新しく駅舎やホテルが建ち、周辺道路も整備されていた。ホテルで昼食を食べてから出発した。

13:00 新地駅から歩行開始

太田、蔵田、横山泰一（以下、泰一）が歩行、横山弥生（以下、弥生）は車で伴走。新しくできた県道38号線を歩く。歩道も広く歩きやすかった。



新地駅前にて



歩道が広く歩きやすい県道 38 号線

途中に戊辰戦争の記念碑があり一休み。「戊辰戦争が起きた慶応 4 年（1868 年）、新地町とその周辺では、明治政府軍と旧幕府軍の激しい戦いが行われていました。この地は、仙台松山隊が最後まで勇敢に戦い、命を落とした場所です」〔新地町 HP から〕

15:20 相馬共同火力発電所、相馬港など見ながら相馬伝承鎮魂祈念館到着 歩行距離 7.4 k m

全員で伝承鎮魂祈念館を見学した。ここは震災によりこの地区で亡くなられた方々を追悼し、震災前と後の風景を後世に残すための市の施設で、原釜地区の震災前の原風景と震災後の写真が展示されていた。ビデオでの展示も用意されていたので鑑賞させていただいた。



戊辰戦役跡で一休み



「仙台藩松山隊勇戦地」の碑



伝承鎮魂祈念館

15:45 太田・弥生班は、松川浦へ向かって歩行開始。蔵田・泰一班は、車で松川大橋を渡り、今年 3 月の福島沖地震で通行不能となっていた鵜ノ尾トンネルへ向かう。トンネル手前のがけ崩れの復旧工事が進行中で車の片側通行が行われていたが、歩行は規制されていた。トンネルの先も駐車場が閉鎖されていたのでトンネル内の歩行は断念し、当初計画通りのルートを歩行することにした。車は大洲松川ラインを途中で U ターンして、歩行班と交代するための場所を探しながら松川浦へ向かった。

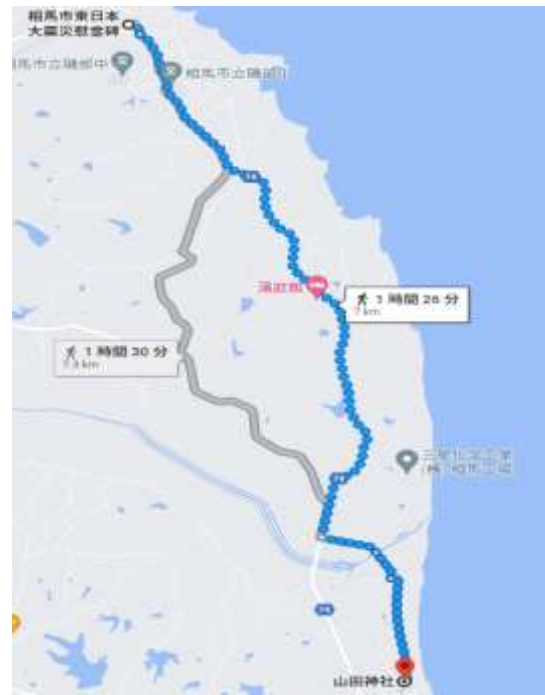
16:30 蔵田・泰一班は車をローソン駐車場に置き、松川浦「丹下左膳の碑」に向けて歩行を開始した。

17:00 松川浦の海岸線を経て、ローソン松川浦に到着（歩行距離 4.2 k m）。車を回収し松川浦の「丹下左膳の碑」へ向かう。

17:30 歩行班は、暗くなったため松川浦手前の百閒橋で歩行を終了（歩行距離 2 km）。松川浦で待機中の車班へ連絡して迎えにきてもらい宿へ。宿泊：ホテルサンエイ大町店

ホテル周辺に飲食店がなく、相馬駅前に向かって暗い通りを歩いて偶然に見つけたイタリアンで夕食を食べることができた。コンビニで明日の朝食と昼食を用意して、ホテルに戻った。街は暗く人通りもほとんどなかった。

【11月2日】 晴れ



宿から車で昨日の歩行終了地点（百間橋）へ移動
8:30 泰一が松川浦へ歩行開始
車班（太田、蔵田、弥生）は、松川浦の景勝地文字
島などを見物し松川浦へ。
8:50 泰一、松川浦到着 歩行距離 1.6km



百間橋から上流方向の眺め



松川浦の丹下左膳の碑



松川浦漁港



多目的グラウンドでゲートボールを楽しむ人々

9:00 蔵田・泰一班が歩行を開始。太田・弥生班は車で次の中継地点である相馬市慰霊碑へ向かった。

9:40 太田・弥生班が相馬市慰霊碑駐車場に到着、そこに車を置いて山田神社へ向かった。



相馬市慰霊碑駐車場



左端に慰霊碑

蔵田・泰一班は、松川浦から堤防の上を歩き出した。松川浦にはスポーツセンターと多目的グラウンドがありゲートボールを楽しむ人たちがいた。



堤防の上を歩く



松川浦越に大洲松川ラインを望む



耕作放棄地に茂る雑草

津波被害の跡地は、セイタカアワダチソウが茂る原野の状態が続く。途中から県道 74 号線へ入り、メガソーラーを眺めながら歩いた。この地区は、津波で大きな被害に遭い災害危険区域に指定されたため、営農の継続が難しくなった田畑や住宅地であった土地を活用するために、メガソーラーが建設されている。

11:00 相馬市慰霊碑到着 歩行距離 6km



磯部地区のソーラー発電所

蔵田・泰一班は、スペアキーで車を回収し海岸に建つ寄木神社を見物した。この神社は、太平洋を見下ろす高台にあり、古来「津波が来たら明神様へ逃げろ」と伝えられてきたという。神社へ参拝し、高台から打ち寄せる大波と砂洲を眺めてから車で山田神社へ向かった。



寄木神社への登り



参拝

11:50 山田神社到着

山田神社は、明治の終わり頃から昭和の初めにかけて干拓され、その総鎮守として祀られたが、東日本大震災による津波で流出し、その後この高台に再建されたそうです。この地区で亡くなられた 47 名の慰霊碑が側にありました。

太田・弥生班は、相馬市慰霊碑から歩き出し、できる限り海岸線に近い道を選び、いくつかの峠を越え、12:20 山田神社に到着（歩行距離 7km）。館前では、残された家の外壁に津波の高さを示す表示あり。

ここで昼食。



山田神社前にて



神社からの眺め

12:50 蔵田・泰一班が歩行開始し、堤防上を風力発電機が並ぶ万葉の里を歩く。太平洋の荒波が波消し、ブロックに当たり大きな波しぶきをあげて堤防が震んで見えた。14:15 真野川漁港を通過。



前方の観音様はこの地区の慰霊碑



風力発電所の前を歩く



真野川漁港



鳥崎海岸公園

14:20 鳥崎海岸公園に到着 歩行距離 4km

13:00 太田・弥生班は、車で山田神社から鳥崎海岸公園へ移動。途中、「鹿島の一本松」の松ぼっくりから育てた苗木を植えた場所（風力発電施設下）を見学した。

銚子港付近で見た風車とはまた異なって興味深い。発電した電力はどこへ送られているのか？（おた）

13:30 車を鳥崎海岸公園に車を止め、北泉海浜公園へ向かって歩き始めた。

東日本大震災で被災し、今年2月の地震で故障した原町火力発電所を迂回し、津波跡の残る平地を通り、一部施設を再建した北泉海浜公園に 14:40 到着した。 歩行距離 4.3km



鹿島の一本松跡地



堤防内側の防災林の苗木栽培風景

蔵田・泰一班は、烏崎海岸公園で車を回収して八坂神社で歩行班を待ったが、歩行班から北泉海浜公園で待つとの連絡が入り、そちらへ向かい歩行班と合流した。合流後、泰一・弥生班が八坂神社へ向けて歩きはじめ、太田・蔵田班は車で八坂神社へ移動。



八坂神社 洪佐慰霊碑

泰一・弥生班は、県道 260 号へ出て鮭川橋を渡り 16:30 八坂神社到着（歩行距離 3km）。合流して宿へ。 宿泊：ホテル西山 シングル 7,000 円

この原ノ町は、浜通りの中心のところで飲食店はどこも混んでいて、ホテルで探してもらってお寿司屋さんの予約がやっととれた。美味しく飲んで食べた。

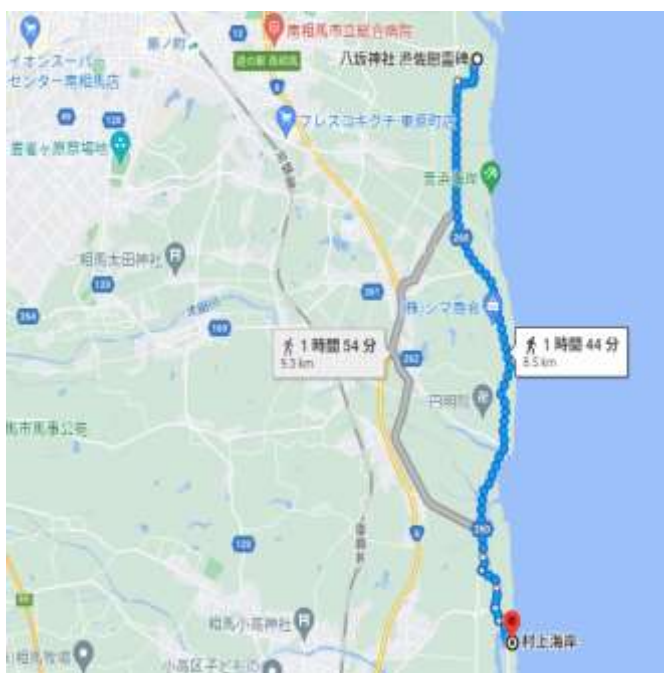


県道 260 号に架かる鮭川橋からの風景



八坂神社にて

【11 月 3 日】 晴れ



8:30 ホテルから車で昨日の歩行終了地点八坂神社へ移動。

8:50 八坂神社出発（太田・蔵田・泰一）、県道260号（浜街道）を歩く。弥生は車で伴走。

9:10 右手にロボットテストフィールド、左手にはソーラーパネルが続く浜街道を歩いた。福島ロボットテストフィールドには、南相馬市・復興工業団地内の東西約1,000m、南北約500mの敷地内に「無人航空機エリア」、「インフラ点検・災害対応エリア」、「水中・水上ロボットエリア」、「開発基盤エリア」が、浪江町・棚塩産業団地内に長距離飛行試験のための滑走路が整備されています[南相馬市HPから]。

ここは世界に先駆けたドローン物流や災害対応ロボットなどの研究開発、実証試験、操縦訓練などを行う開発拠点として、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故で失われた同県浜通り地域の産業再構築を目指す福島イノベーション・コースト構想の中核施設の1つとなっています。



福島ロボットテストフィールド



太陽光パネル

この先から堤防上に出て歩いた。9:40



萱浜海岸



長大な堤防は、本当の役に立つのかが感想。設計思想を勉強したいです。当然、住民には説明されているとは思うが。(おおた)

防潮堤の設計は、東日本大震災による津波の経験を生かした粘り強い構造にしています。すなわち上の写真でもわかるように、陸側の法面の勾配を緩くしているのがその対策の一つだそうです。

この大きな波が打ち寄せる海岸は、サーフィンに向いているようだが、「地元の人と一緒にないサーフンは禁止」という看板が出ていた。しかし駐車場等が整備されていないし、サーファーもいなかった。堤防を下りて道路へ出るまで、松の苗木と雑草の藪漕ぎをしてしまった。

再び浜街道を歩く。途中、工業団地に自動車リサイクル工場や大内新興化学工業原町工場など、いくつかの工場が立ち並ぶ。その先には、ドローンの離発着場が海岸線に沿った台地に設けられていた。離発着場とはいえ雑草を刈り払っただけの野原だが、ドローンなら問題ないですね。

10:45 待ち合わせの稲荷神社に到着した。

弥生は、車を稲荷神社に置き、波切不動尊を往復した



ドローン離発着場の看板



波切不動尊



稲荷神社

11:00 一休みしてから、歩行班3人は村上海岸に向けて出発。途中海岸に近い細い道に迷い込み、土地の人の案内で浜街道に戻った。

12:00 村上海岸に到着（歩行距離 8.5km）し、ここで昼食。



村上海岸にて



小高川河口に打ち寄せる波

太田・蔵田・弥生班が歩行開始、車は泰一が運転して次の中継地点（角部内慰霊碑入口）へ向かう。

13:55 角部内慰霊碑入口到着 歩行距離 3.5km

ここからは太田・蔵田・泰一が歩行し、弥生が車で伴走した。

綿紡神社で大休憩。

再び歩きはじめ浪江町に入ると白い大きなタンクが目に入った。真新しい施設が福島水素エネルギー研究フィールドだ。我々の車が正門前に停まっているのを不思議に思ったのかパトカーが徐行して

近づいてきた。我々も車に近づいたのでパトカーはそのまま走り去った。パトカーが巡回しているのには驚いた。

15:40 福島水素エネルギー研究フィールド到着（歩行距離 4km）。



浪江町に入る



福島水素エネルギー研究フィールド到着

2020 年 2 月に完成したこの施設は世界最大級の水素製造量能力を持ち、水素製造のエネルギーは太陽光を用いています（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の助成事業）。浪江町は 2020 年 11 月に水素を町の産業活性化につなげるための「なみえ水素タウン構想」を策定しています（波江町 HP）。福島水素エネルギー研究フィールドは東北電力が「浪江・小高原子力発電所」を建設するために取得した土地につくられたそうで面白いですね。

ここから車で浪江町のホテルに向かった。双葉の杜 シングル 6,900 円

ホテル周辺は飲食店やスーパーなどが新しくできていた。おそらく建設従業員用と思われる街ができていた。

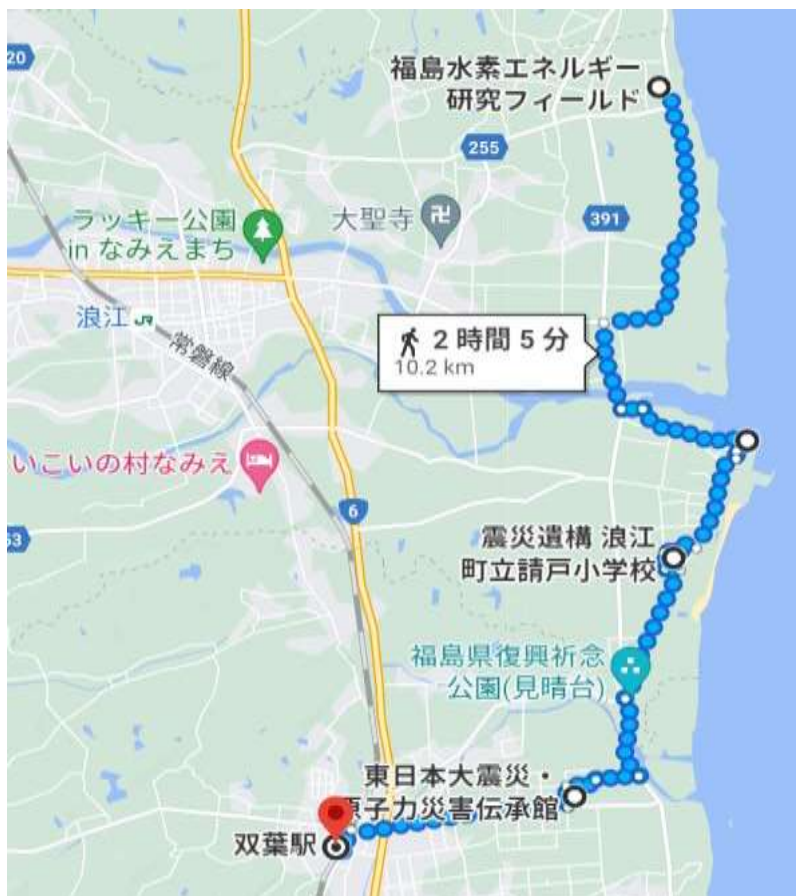
【11 月 4 日】曇り時々晴れ

福島水素エネルギー研究フィールドまで車で移動し歩行開始。昨日のように怪しまれないように歩く会の黄色い T シャツを着た。

8:22 太田・蔵田・泰一が歩行、弥生が車で伴走。津波の痕跡が残る立ち枯れた木やガードレールの中にいち早く再建されたお墓がありこの土地に対する住民の想いを強く感じた。



福島水素エネルギー研究フィールド正門





真新しいお墓



津波の痕跡が残る更地

造成工事が進行中で、ダンプカーの出勤時間と重なり数十台のダンプカーとすれちがった。マスクはダンプとのすれ違いには必要性を感じた。特に喉が弱い人間にとっては。ダンプとの交通事故防止対策にも、黄緑色の T シャツは大いに役立つ。(おた)

9:50 請戸漁港到着



請戸漁港



ここの放射線量 0.046 μ S/h

漁業者は高台に集団移転しているため、漁港周辺に民家はなく土地造成作業が進んでいる。
走行中の私の車の異常音が気になった。昨日夕方から走行時に何か絡まったような音がしたり、しなかったりしていた。今日も同じ状態で不安になった。



道路右側は田圃（緑色は孫生え）左の海側は更地



更地の向こうに請戸小学校

10:40 震災遺構請戸小学校見学

海から 300m のこの学校は、近くに避難できる高台がなく、東日本大震災の発生直後に 2km 先の大平山に全員が無事避難することができた奇跡の学校として知られています。倒壊を免れた校舎の時計は、津波到来の 15 時 38 分を指して止まっていました。

11:42 復興祈念公園（見晴台）に到着。



震災遺構請戸小学校



1 階教室内



復興記念公園見晴台



伝承館への道

12:00 東日本大震災・原子力災害伝承館到着。

昼食を食べてから見学

この施設は、「未曾有の複合災害の記憶を風化させず、そこから得た教訓や復興に向かう姿を国内外に発信すること」を目的に造られています。津波の発生から避難までの体験談の語り部の話を聴きました。



伝承館前のモニタリングポスト

東日本大震災・原子力災害伝承館前のモニタリングポストの線量は、 $0.057\mu\text{S}/\text{h}$ でしっかりと除染されていることがわかる。一方、立入規制が解除されて間もない地域の放射線量は、 $0.26\mu\text{S}/\text{h}$ と高く、除草作業員は防護服を着ていたのに驚いた。

最初に計測した $0.05\mu\text{S}/\text{h}$ より、双葉駅近郊では5倍強い放射線量は気にはなりました。作業員は被爆量を当然、積算しているのだろう？ 双葉駅付近の線量増加は、やはり住民の帰還が遅れ、無人家屋が増えているのは実感として感じた。(おおた)



双葉駅へ向かう道路を歩く

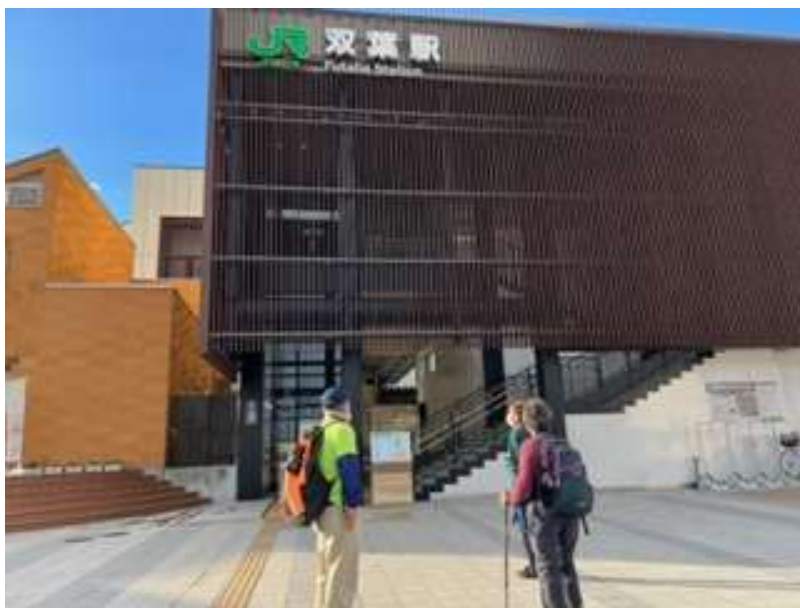


道路沿いのモニタリングポスト



閑散とした駅前通り

15:08 常磐線双葉駅到着（歩行距離 10km）
し、福島前半歩行を終了した。



双葉駅にて

《歩行を終えて》

初日が長距離歩行でなく助かった。やはり初日の距離が翌日以降につなげるには、大事との感想です。

暗くなってからの集合場所特定が難！一考が必要の感想です。また、未知の夜間走行は特に漁港は岸壁の境を発見するのが難しい。(おおた)

堤防の上を歩いて良かったです。海岸線を歩く旅だからこそと思いました。セイタカアワダチソウの茂る原や水鳥のいる水路は、心和む風景でしたが、津波被害の事を思うと複雑な思いでした。車が伴走的に使えて何かと便利でした。震災津波の実態を見、復興を考えさせられた旅でした。(蔵田)

福島県の浜通りを歩いて感じたことは、まだ復興の道半ばであること。津波浸水地域は防災林と公園造成事業が行われていて、まだまだ人が住む環境には至っていない。この点が岩手県や宮城県の海岸沿いの町との違いを感じた。広大な地域に太陽光発電パネルが並んでいる。地産地消ならまだ良いが、結局は大都市に送られているのか？

水素エネルギー研究フィールドでは、太陽光発電で水素を製造する実証事業が始まっている。浪江町では、「水素の町」として企業誘致につなげる計画がある。実現することを祈る。

ロボットテストフィールドでどのような研究開発が行われているか良くわからないが、国の「福島イノベーション・コースト構想」に基づいた事業で、ドローンをはじめとするフィールドロボットの研究開発拠点を目論んでいるようだ。しかし、ドローンの離発着場を見ても、どの程度活用されているのか、伝承館の芝生に草刈ロボットが走っていたが、これではなさけない。とにかくインフラだけは整備したが、どれだけ活用されるかはこれからのようで、南相馬市をあげてロボットの町にしたいようで企業誘致が進むことを願っている。

海岸線を歩いて海が綺麗だった。大きな波が打ち寄せるのは見ていて飽きなかった。サーファーには人気の場所となると思うのだが、鳥崎海岸公園、村上海岸、北泉海岸公園などトイレはあるが観光資源としてもったいない気がした。(泰一)

東日本大震災・福島原発事故から既に 11 年の月日が流れる。新地町、相馬市は、浜通りにあって、放射能汚染は少ない方なので、相馬市の中心部の公園に設置されたモニタリングポストを見ると、 $0.07\mu\text{Sv}$ を示していた。日本の平均が $0.04\mu\text{Sv}$ と考えると、いまだに放射能汚染の影響が残っていると考えられる。双葉町の沿道では、 $0.26\mu\text{Sv}$ となっていた。海岸線は、黄色い花をつけたセイタカアワダチソウやススキの群落、その間に太陽光発電のパネルが延々とつづく。津波前の漁村の集落は跡形もなく、その姿を消していて、震災記念碑にありし日の集落の姿を求めるに過ぎない。北から歩いてくると、浪江町、双葉町では、原発被害により無人となった時の長さの重みを感じさせられた。双葉町では、伝承館周辺は見学者や工事関係者などで、それなりの賑わいはあるが、中心となる商店街の店はそのほとんどが壊され、敷地のみとなっていて、人が住む街からは程遠いものとなっていた。(弥生)

以上